

軽量樹脂ルーフィング I M A ルーフコート® S R 施工説明書

ルーフコートSR・粘着ルーフコートSR 共通
(粘着ルーフコートSRはステープル留め付けなしで施工できます)

※ルーフコートSRは廃番となり、新製品：ルーフコートSRplusに移行致します。

●施工前の留意

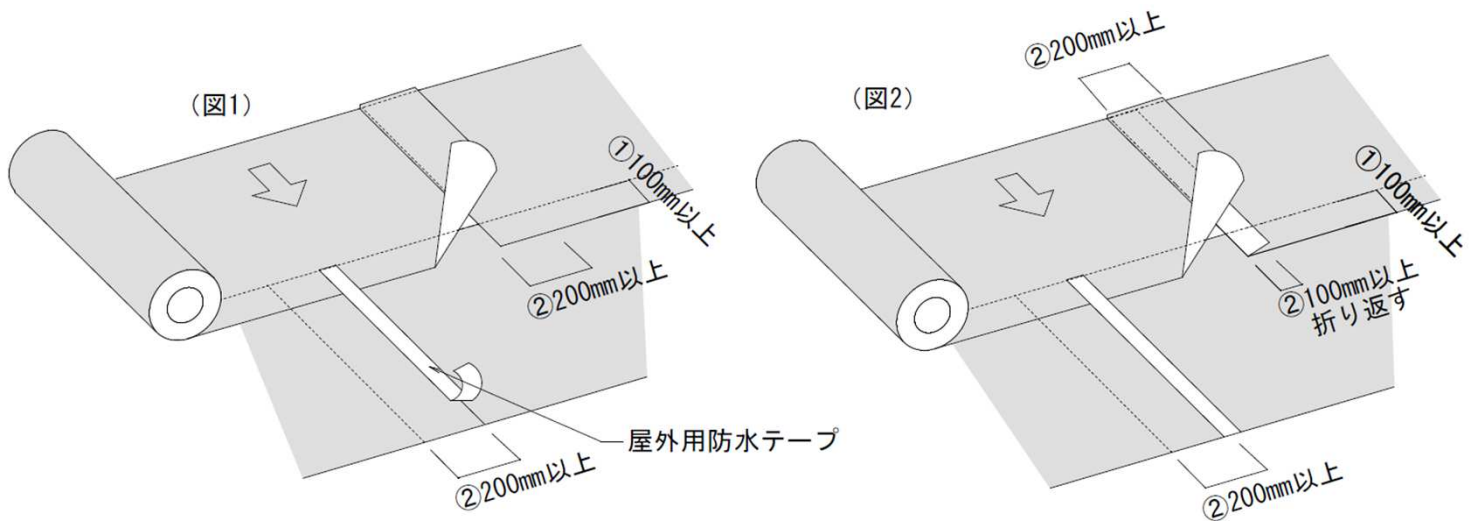
- (1) 本製品は屋根の下葺き材です。表層での使用はしないでください。
- (2) 3寸未満の緩勾配などで、ステープルなど釘穴や重ね代の部分からの浸水が懸念される場合は、屋外用防水テープなどによる防水補強を推奨します。
- (3) 野地板表面は清掃を必ず行い、突起が無いことを確認してください。
- (4) 野地板に目地空きや段差がある場合は修正してください。
- (5) 野地板は十分に乾燥した状態で施工してください。
- (6) ステープルの打ち損じ(座屈等)、空打ちは、漏水の原因となるため、屋外用防水テープで覆うなど補修してください。
- (7) ステープルは重ね部以外には打たないでください。重ね部以外で打った場合で漏水の懸念のある箇所は屋外用防水テープで覆うなど補修することを推奨します。
- (8) 強風下での施工は避けてください。
- (9) 屋根材の施工はルーフィング施工後速やかに施工してください。
- (10) 火や高熱物を近づけないでください。
- (11) 保管は、高温、水濡れ、直射日光にさらされない場所でしてください。

施工方法 (推奨施工例)

【施工例 1】

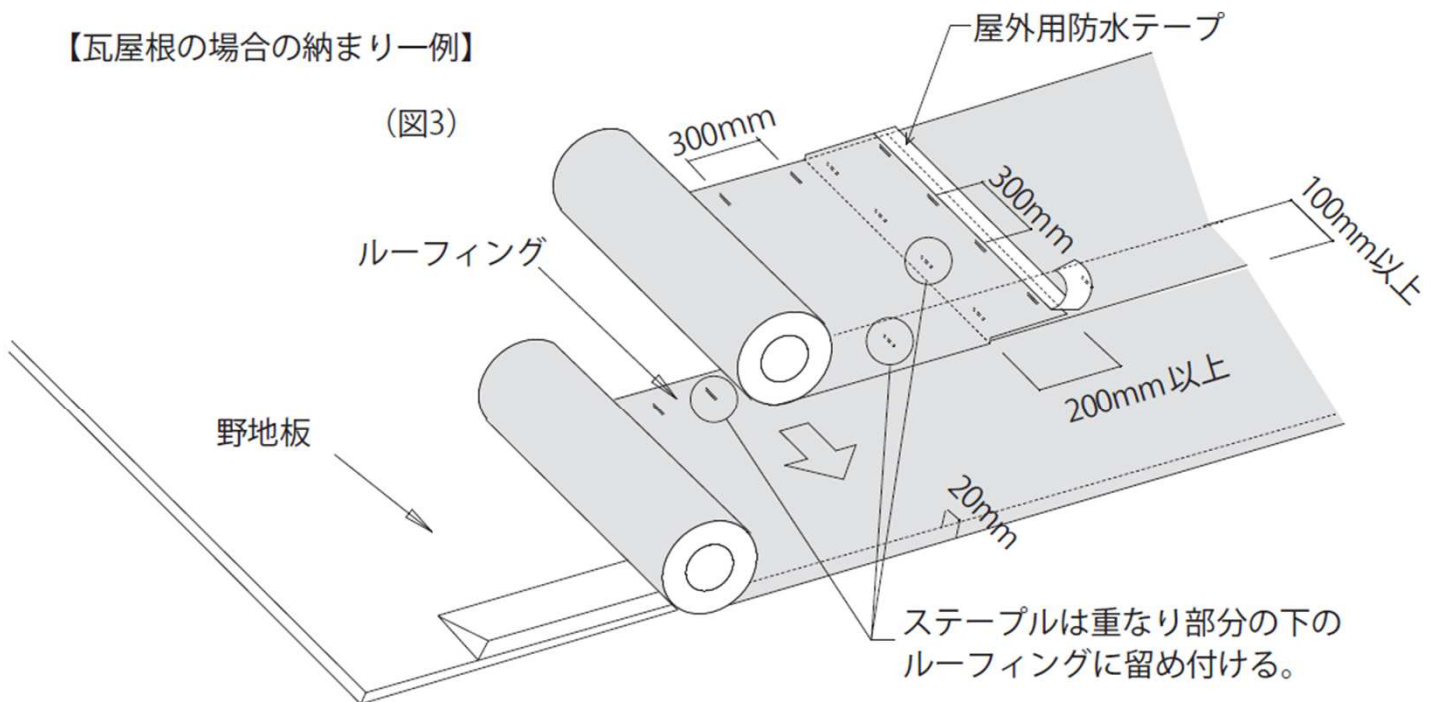
平部

- (1) ルーフィングは原則桁行き方向に横貼りしてください。
- (2) ルーフィングの重ね部は、長手方向200mm以上、流れ方向100mm以上とし、シワ、緩みのないよう貼り上げます。長手方向の継ぎ目は接近しないように乱貼りとします。※必須
- ・長手方向の継ぎ目は屋外用防水テープを貼ります。(図1参照) ※推奨
 - ・もしくは下側にくるルーフィングの端部を100mm以上折り返し、上側にくるルーフィングを200mm以上重ねてください。(図2参照) ※推奨



- ・ルーフィングは、軒先先端より20mm程度出し、順次登り方向に貼って行きます。流れ方向の重なりは100mm以上、桁行き方向の重なりは200mm以上を確保してください。※必須

【瓦屋根の場合の納まり例】

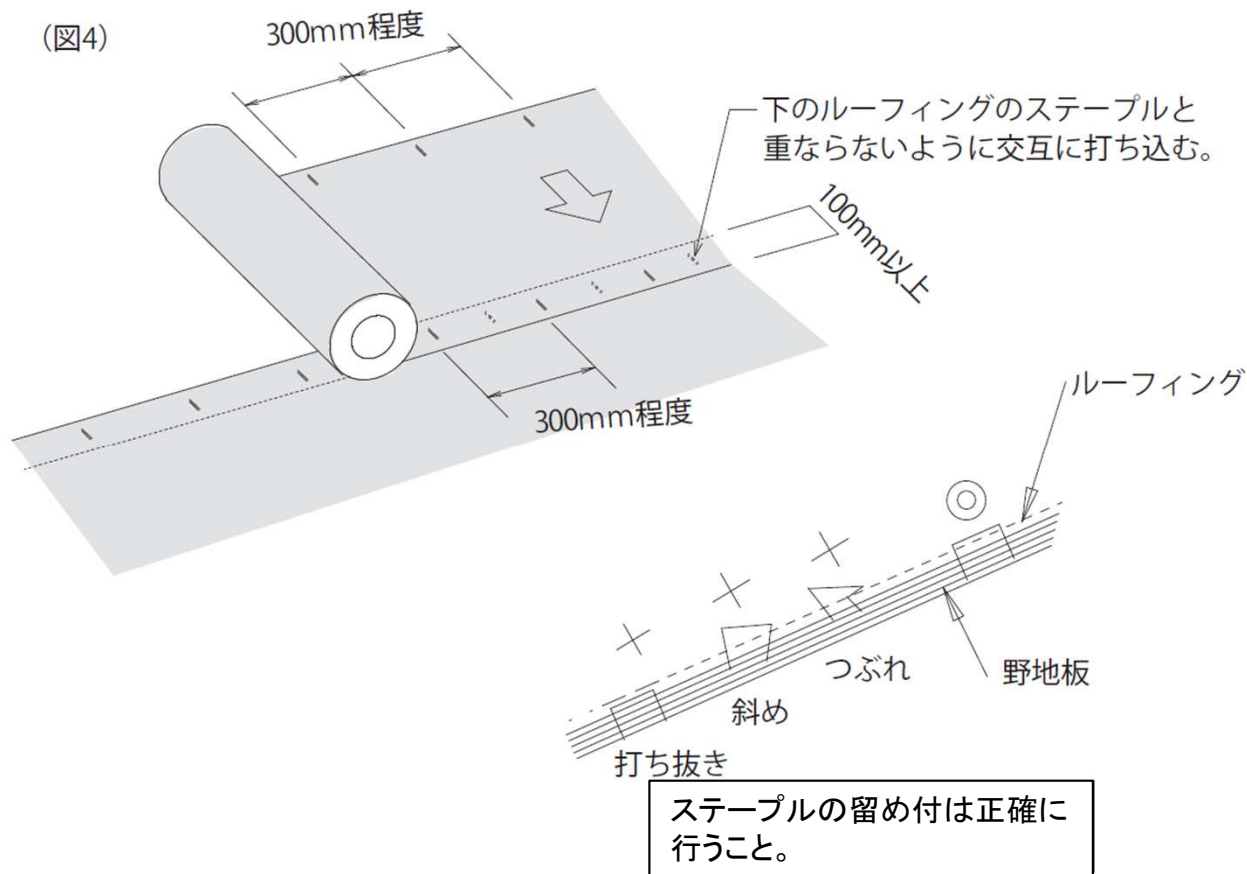


(施行例)

【 施工例 2 】

平部

- (3) ステープルはルーフィングの重ね部に打って下さい。重ね部以外にステープルを打った部分で浸水の恐れのある部分には必ず屋外用防水テープを貼ってください。※必須
ステープルの留め付けは、重なり部分の下のルーフィングに300mm程度の間隔で留め付け、上のシートは100mm以上重ね（シートに印刷されている線が目印です）、下のステープルと重ならないように交互に300mm程度の間隔で留め付けます。（図4参照）※必須
ステープルはステンレス製を推奨します。

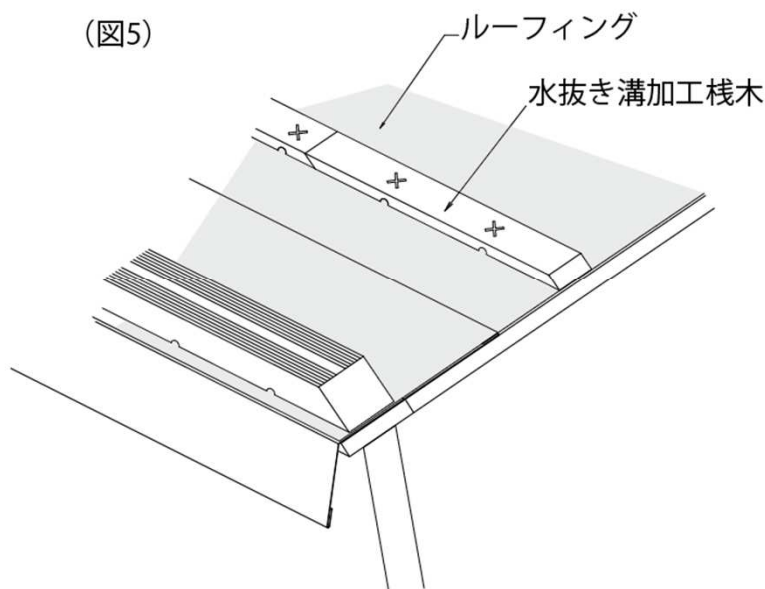


- (4) 瓦栈木等の施工は、流し栈工法や溝が加工された栈木を使用し、栈木に雨水等が滞留しないようにしてください。※必須

<瓦屋根の場合の納まり一例>

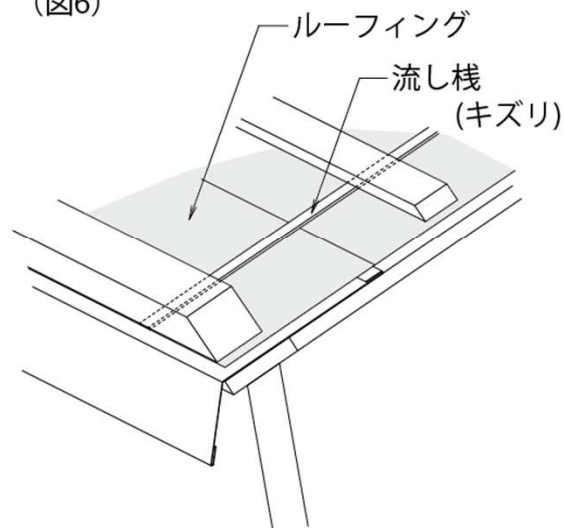
水抜き栈木工法例

(図5)



流し栈工法例

(図6)

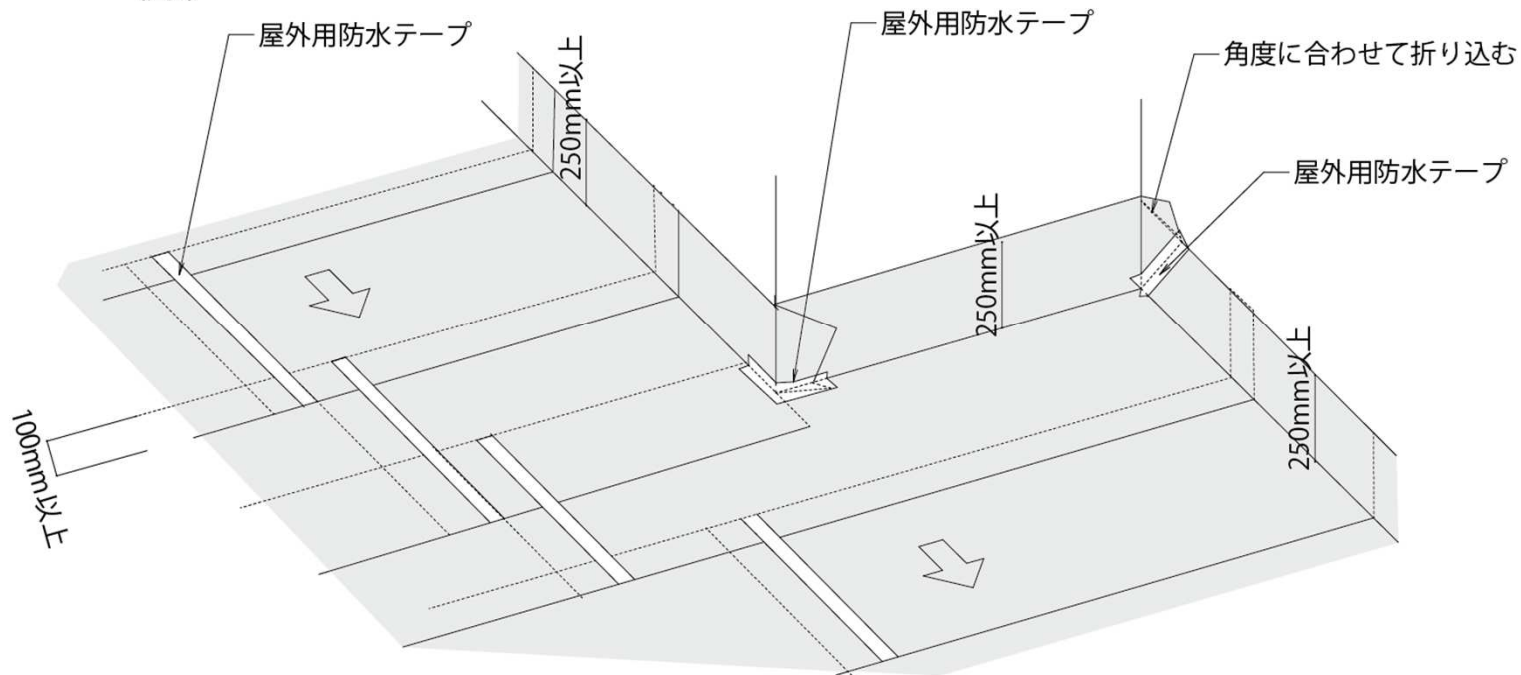


【 施工例 3 】

壁際部

(5) 壁取り合い部はルーフィングを250mm以上立ち上げてください。※必須

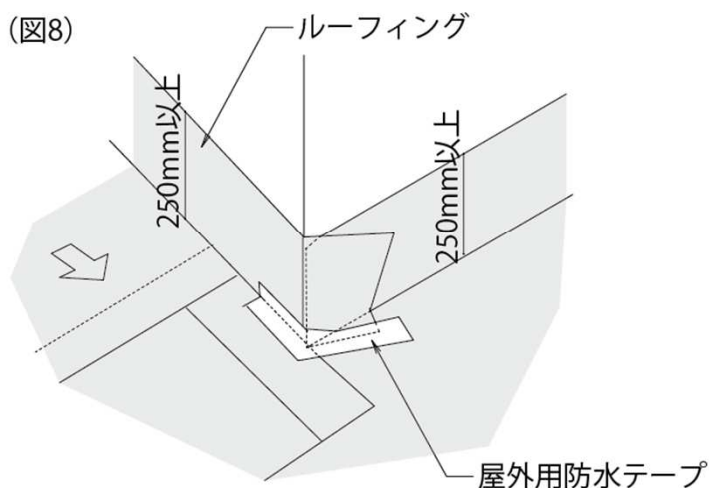
(図7)



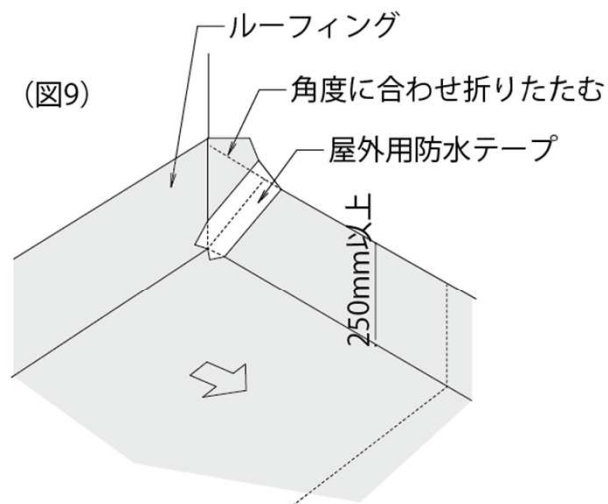
・壁際部は平行側・流れ側とも250mm以上の立ち上げてください。雨押え板金を使用する場合は、雨押えの上端より50mm以上の立ち上げを確保してください。※必須

(6) ピンホールが出来るおそれがある箇所（出隅、入隅など）は、屋外用防水テープ等で補強処理をします。※必須

(図8)



(図9)

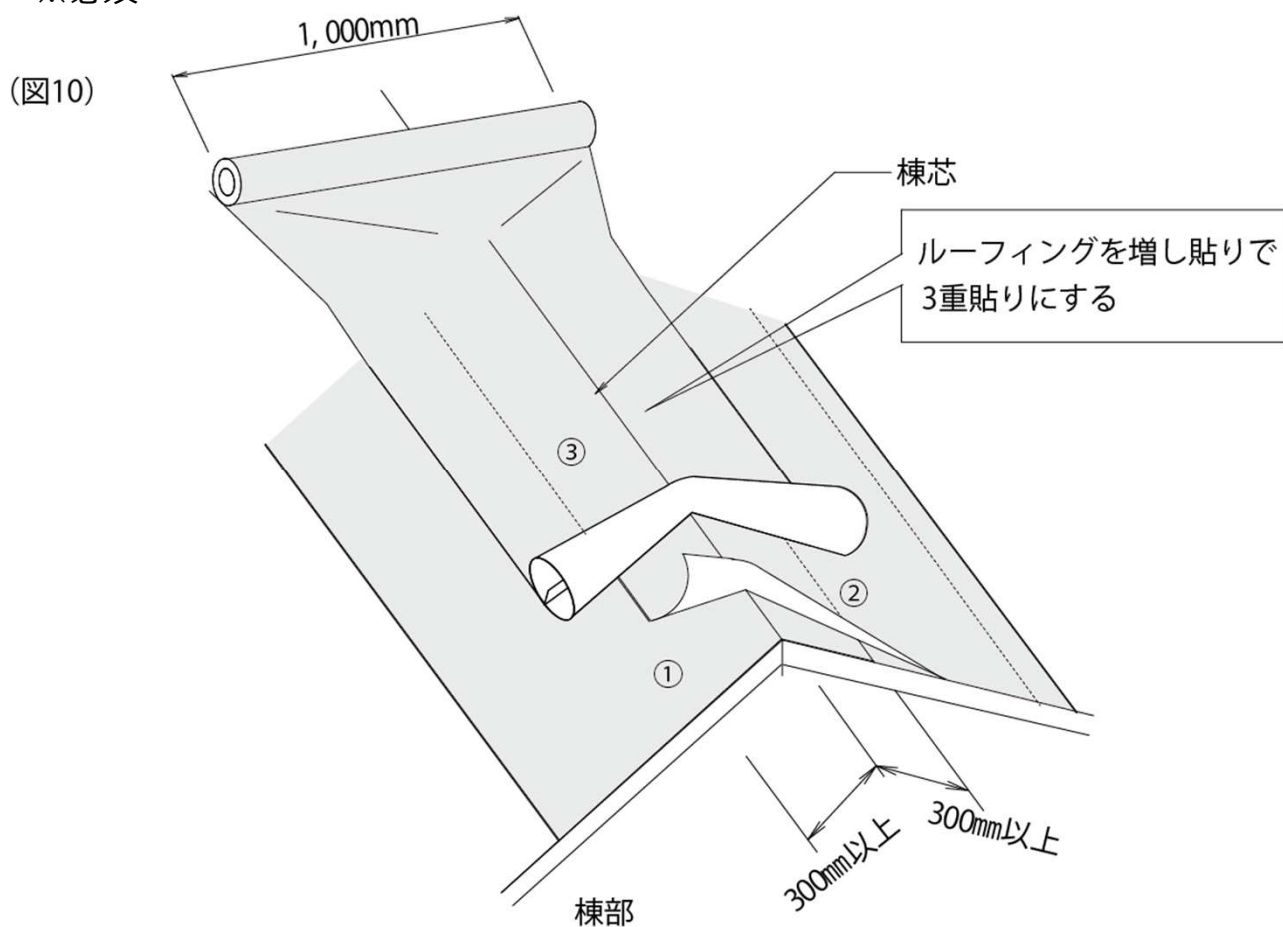


【 施工例 4 】

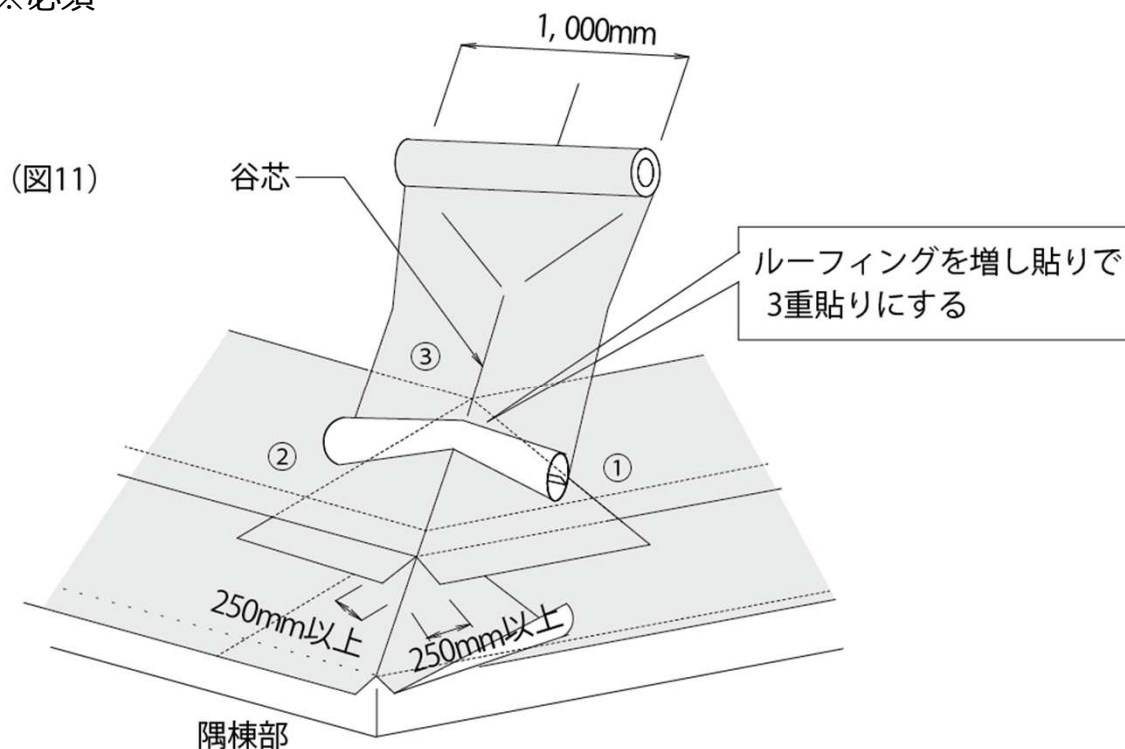
棟部、隅棟部

(7) 棟部 (図10, 11参照)

大棟部においては、300mm以上ずつ両側折掛けとし、さらにルーフィング（1,000mm幅）を棟頂部から左右へ折掛けるように増し貼りしてください。隅棟部においても同様に増し貼りして下さい。
※必須



・隅棟部に関しても、250mm以上の重なりが充分確保できるように、ルーフィングを貼ります。
※必須

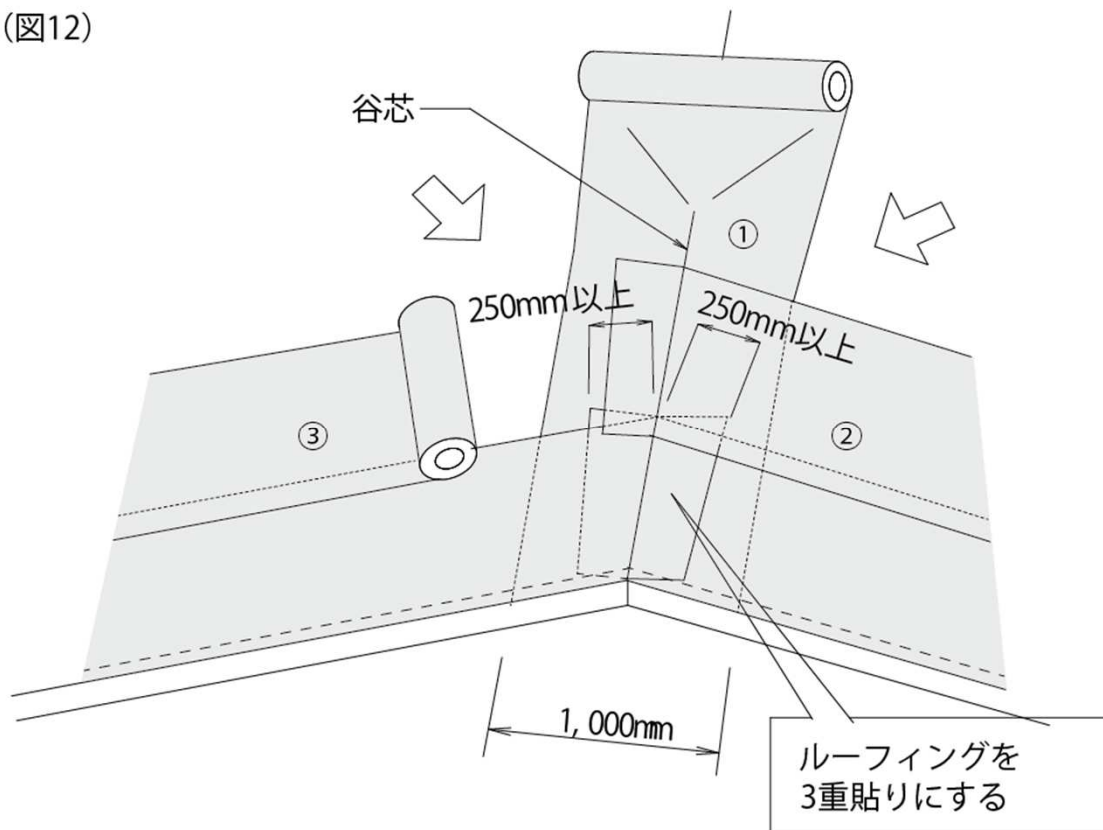


【 施工例 5 】

谷部

- (8) 谷部は、谷底から左右へ①ルーフィング (1,000mm幅) を先貼りし、
その上から②③ルーフィングを左右に重ね合わせながら、谷底より250mm以上
施工してください。 ※必須

(図12)



【 施工例 6 】

軒先、けらば部

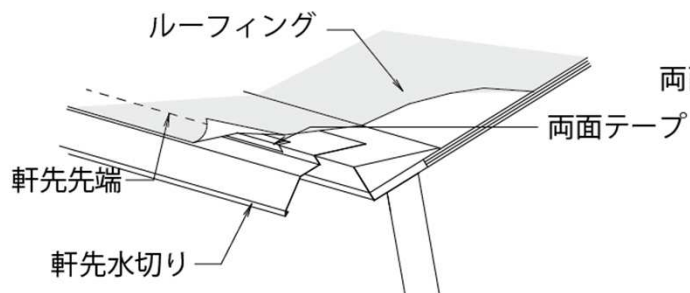
(9) 軒先部は、瓦座・広小舞や鼻隠しの上まで覆うように貼ってください。軒先水切り金物には両面防水テープで密着させます。

鼻栈の施工は、流し栈工法や溝が加工された栈木を使用し、栈木に雨水が滞留しないようにしてください。※必須

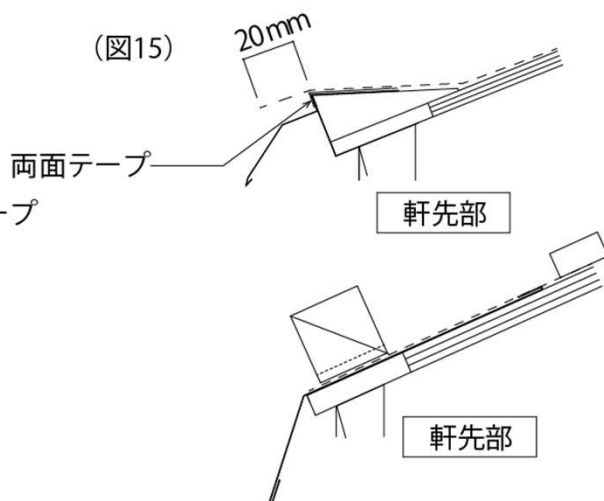
<瓦屋根の場合の納まり一例>

一般的な納まり例 (図14, 15 参照)

(図14)

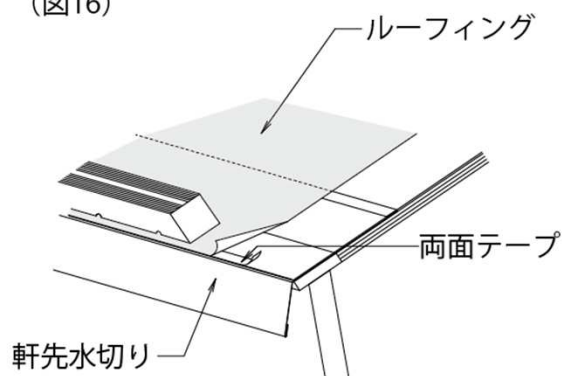


(図15)

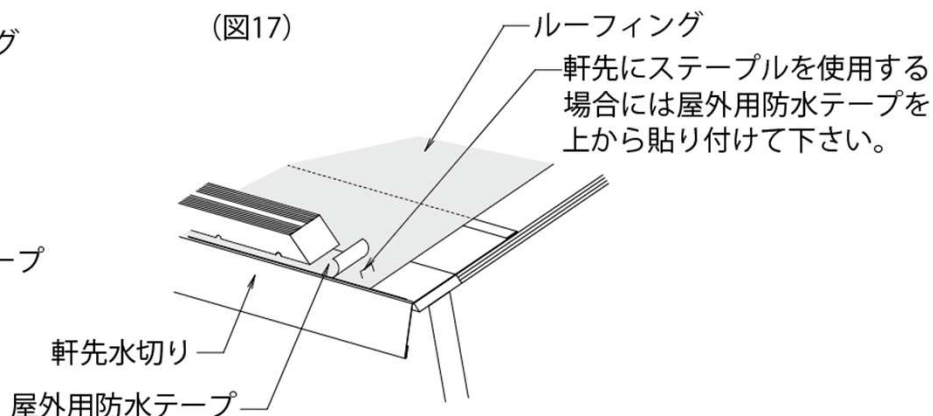


溝加工の栈木を使用する場合 (図16, 17 参照)

(図16)



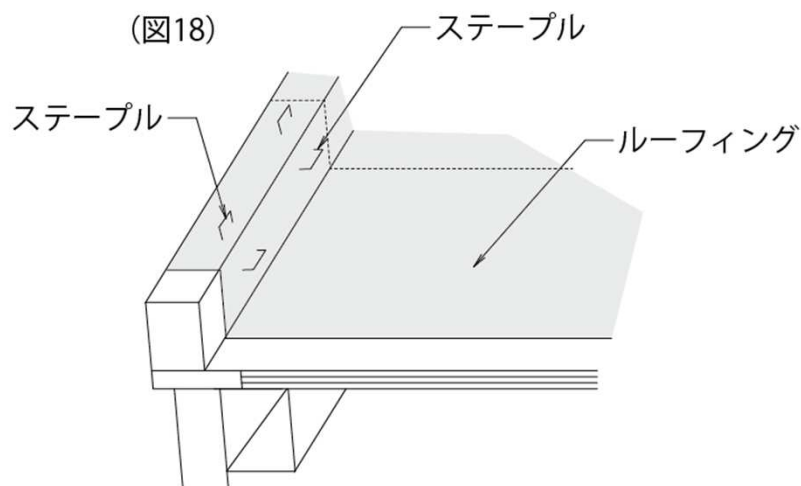
(図17)



(10) けらば部は、けらば登り淀までルーフィングをかぶせ、端部を屋外用防水テープで防水処理をしてください。※必須

<瓦屋根の場合の納まり一例>

(図18)



(図19)

